

閉塞性黄疸患者における診断・治療内容に関する後方視的検討

市立福知山市民病院消化器内科では、閉塞性黄疸患者様を対象に、臨床経過に関する後ろ向き調査に関する研究を実施いたします。そのため、過去に閉塞性黄疸と診断された患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。実施にあたり市立福知山市民病院倫理委員会の承認を受けています。

・研究の目的

閉塞性黄疸は胆管が閉塞することにより生じる黄疸です。閉塞性黄疸をきたす疾患では胆管結石が最も頻度が多く、炎症性疾患や胆道癌や膵臓癌といった悪性疾患まで多岐にわたります。近年、画像診断や胆管ドレナージの治療が進歩しております。本研究では、閉塞性黄疸と診断された方の画像診断法、疾患名、胆道ドレナージ法などを後ろ向きに検討し、また治療後の臨床経過も検討することで、今後の、疾患に応じた閉塞性黄疸の最適な治療法の解明の一助となることが期待されます。

・研究の方法

対象となる方について

2014年1月1日から2020年9月30日までに市立福知山市民病院にて閉塞性黄疸と診断された患者様が対象となります。

研究期間：市立福知山市民病院倫理委員会承認後～2022年3月31日までの期間

方法

カルテ上の記録を調べ、性別、年齢、既往歴、服用歴などの臨床情報を集計し、黄疸が改善するまでの期間や治療経過を調べます。

研究に用いる試料・情報について

情報：性別、年齢、身体情報（身長、体重、PSなど）、病歴、治療歴、家族歴、併存疾患、既往歴、嗜好歴、血液検査結果(血算、生化学など)

・個人情報の取り扱いについて

患者さんの測定結果、カルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し、研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、イン

ターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、入室が管理されており、第三者が立ち入ることができません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者(市立福知山市民病院 消化器内科 医師 原 祐)の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

・研究組織

市立福知山市民病院 消化器内科

・お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2021年3月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし、同意を取り消した時点で既に研究結果が学会や論文などで公表されている場合など、廃棄することができない場合があります。

連絡先

市立福知山市民病院 消化器内科
職・氏名 副医長・原 祐

電話:平日 9:00-17:00 0773-22-2101